

# 農村女性の経営・社会参画を進めるために ～「アグリレディース海匠」班活動を実施して～

## 1 課題の目的

海匠地域は県内トップクラスの農業地域であり、地域農業の発展を図るためには農業経営のパートナーである女性農業者の役割が重要であるため、ネットワークによる女性の経営・社会参画を進めるために「アグリレディース海匠」を結成した。

しかし、組織活動に求める会員の要望が様々であり活動も停滞気味であったため、会員の要望を取り入れた班活動を実施し、女性農業者の経営・社会参画の推進や組織活性化を目指した。

## 2 課題の背景

(1) 平成 28 年に「アグリレディース海匠」を会員 44 名で結成したが、会員の年代は 20 代～40 代が 20%、50 代が 10%、60 代以上が 70%と幅が広く、暮らしや農業経営の役割や組織活動で学びたい内容も様々であった。

(2) アグリレディース海匠は 3 組織の会員が母体となって組織した会であり、集合研修のみでは会員の要望への対応が難しかった。特に起業家の会員は、起業活動の向上や販路拡大等について学びたいとの意向があった。

## 3 普及活動の経過

(1) 理事会及び総会で活動内容や活動方法の検討

①会活動の参加者が固定されている、②起業家は起業の研修会や交流会をしたい、③長年、組織活動に従事してきた会員の学習意欲の低下等の問題提起があった。そこで、会員の要望に合わせた班活動（農産物加工・農業経営・農業労働）を農業事務所が提案し、役員賛同を得て総会で承認され班活動に取り組むことになった。

(2) 班活動の内容と活動方法の円滑化

会員に班活動の内容を知らせ、活動したい班の希望をとり班員を確定し、農産物加工班 20 名、農業経営班 13 名、農業労働及び健康管理班 23 名となった。

各班とも、第 1 回目は理事会で期日や内容を決め、1 回目の研修会で会員が年間活動計画を作成した。なお、各班の班長・副班長・会計は 7 名の理事で分担し、各班に連絡網を整備した。

(3) 効果的な班活動の推進と組織活性化支援

ア 農産物加工班

起業活動の経営向上と起業志向家の育成をねらいとして、7 月 24 日と令和 2 年 1 月 15 日に農産物加工研修会を開催した。また、各市の産業祭りや東総文化会館のイベントに参加し、加工品の販売を行った。

#### イ 農業経営班

若手の会員及び地域で活動している若手グループにも呼びかけ、会活動のPRと経営者能力の向上をねらいとし、6月23日に豊洲市場と君津市内の加工キャベツ生産者（若手法人経営）の視察研修会を、10月23日に、税理士を講師に「税制改正及び決算時の留意点」についての研修会を行った。12月13日開催の「外国人労働者の雇用管理」についての研修会に参加するように働きかけ、雇用管理能力の向上を図った。

#### ウ 農業労働及び健康管理班

労働環境の整備と健康で働ける身体づくりをねらいとし、7月30日に熱中症対策や被服装備等の講話と手軽な腰痛予防体操を実施した。また、12月9日に、ふれあいパーク八日市場の見学を行い、直売所による地域活性化の活動事例を学んだ。さらに、令和2年1月24日の海匠農業活性化フォーラムの後援団体となり、多くの会員がフォーラムに参加することになった。

### 4 普及活動で得られた成果

#### (1) 班活動により組織活動の活性化

3班に別れて各2回以上、各自の要望にあった研修会を実施し、加工班2回延べ32名、農業経営班3回延べ25名、農業労働班3回延べ28名が班活動に参加し、起業活動や農業経営の改善意欲が向上した。また海匠農業活性化フォーラムでGAPの取組による農業生産のレベルアップの取組を学び、環境整備等の改善への意識が高まった。

#### (2) 社会参画者の増加

会員の社会参画者は、指導農業士2名、農協理事2名（経験者含む）、農業委員5名（経験者含む）千葉県いきいきアドバイザー6名等社会参画が進んでいる。また、令和2年7月に2市で農業委員の改選があり組織からも推薦を予定している。

#### (3) 若手会員の増加

旭市の若手きゅうり生産者グループ「詳和会」は生産技術の向上を目的として活動していたが、豊洲の視察研修会や税務研修会等に参加したことにより、農業経営や暮らし等も学びたいとアグリレディース海匠に未加入の5名が新たに加入した。組織全体として、若手農業者の割合が増加し活動も活性化した。

### 5 問題点と今後の展開方向

(1) 旭市「詳和会」の若手女性農業者が加入した事により、20～40代は26%になったが、次代を担う若手女性農業者の育成が課題である。また、社会参画者も、60代以上の会員が担っているため、女性農業者のリーダー育成も必要である。

(2) 旭市や匝瑳市で、今年度より生産者の女性を対象としてセミナーを開催した。

今後も、JAの生産部会と連携し農業生産を支える女性農業者の育成が必要である。

（匝瑳グループ 上席普及指導員 竹内 和江）